

名古屋能楽堂



Nagoya Noh Theater

正月特別公演



能「翁」

翁
千歳
三番叟

(観世流)

山中 雅志
久田 勘吉郎
井上 蒼大

狂言「枕物狂」

シテ

(和泉流)

佐藤 友彦

能「杜若」

シテ

(観世流)

久田三津子

令和9年1月3日(日)

13:00開演(12:00開場)

※能「翁」開演後30分程は入退場できませんのでご注意ください。

指定席 5,200円

自由席(一般) 4,200円

自由席(学生) 2,000円

10月15日(木)より 前売券発売

豊臣能楽 ～豊臣家の能と狂言～

秀吉プロデュースの禁中能、大胆かつ華やかに開催される!

能にはまった秀吉は、禁中(天皇のお住まい)にて能を催すことを計画、稽古を始めてわずか九か月後に実現させます。文禄二年禁中能として知られるそれは、豊臣政権下の武将が多数出演し、本業の能楽師たちも参加するという前例のないイベントで、秀吉はじめ、徳川家康・秀忠親子、織田常真(信雄)・秀信(幼名三法師)、前田利家、宇喜多秀家、毛利輝元、細川幽斎など錚々たる顔ぶれが三日にわたり能を舞い、狂言を演じ、囃子を担当したのです。秀吉による禁中能はこのあと、文禄三年、慶長元年にも行われています。

正月特別公演では、文禄二年の番組にちなんだ演目をそろえました。

《翁》は、禁中能では初日・二日目を秀吉の師である暮松新九郎が、三日目は弟の秀長が生前後援した金春安照が勤めています。《杜若》は秀吉本人が三日目に演じました。この日は女房たちに見せる催しであったと『駒井日記』などの記録にあり、秀吉の思いがうかがえます。当公演では「恋之舞」の小書付で上演いたします。狂言は初日に前田玄以らによって演じられた《枕物狂》を。これは三老曲の一つとして重く扱われる特別な作品です。

上:能「翁」 下:能「杜若」(撮影:工房円)



主催



名古屋市文化振興事業団「名古屋能楽堂」

公益社団法人 能楽協会 名古屋支部



※能「翁」開演後30分程は入退場できませんのでご注意ください。

能

翁(観世流)

翁 千歳
三番叟
面箱持

山中 雅志
久田勘吉郎
井上 蒼大
奥津健一郎

笛 竹市 学
脇鼓 福井 聡介
小鼓頭取 後藤嘉津幸
脇鼓 船戸 昭弘
大鼓 河村裕一郎

後見 林本 大
上田 貴弘
今枝 郁雄

狂言後見 井上松次郎
今枝 郁雄

狂言

枕物狂(和泉流)

休憩二十分

シテ 祖父
アド 太郎
アド 次郎
アド 乙

佐藤 友彦
松田 高義
藤波 徹
伊藤 泰

後見 野村又三郎
野村小三郎

地謡 今枝 郁雄
井上松次郎
鹿島 俊裕
佐藤 融

能

杜若(観世流)

シテ 杜若の精
ワキ 旅僧

山村 友子
船戸 昭弘
河村眞之介
加藤 洋輝

笛 竹市 学
小鼓 後藤嘉津幸
大鼓 河村眞之介
太鼓 加藤 洋輝

後見 久田勘吉郎
生一 知哉

地謡 伊藤 裕貴
吉沢 旭
松山 幸親
下川 宜長

(午後四時頃終了予定)

【イヤホン・ガイド】

◆能「翁」

日本語／米田 真理

(朝日大学経営学部教授)

英語／藤江 さおり

(通訳ガイド)

◆能「杜若」

日本語／大山 範子(神戸女子大学古典

芸能研究センター非常勤研究員)

英語／藤江 さおり

(通訳ガイド)

●止むを得ず曲目・出演者等が変更となる場合があります。

●上演中の写真撮影・ビデオ撮影・録音は事前に許可を受けた方以外のご遠慮ください。

◆能「翁」(おきな)

新春、切火で清められた舞台に、潔斎をすませた演者が、面箱・翁・千歳・三番叟と続いて全員が登場する。

「切火」とは、この場合、幕際から火打石で火を飛ばすこと。後見の役割。清新の気が漲る。

翁は狩衣・指貫・面箱・千歳・三番叟は侍烏帽子に直垂。囃子・地謡などは侍烏帽子に素襦を着る。

「翁」の舞は三部から成り立っていて、最初の千歳は「鳴るは滝の水」と謡い出し、若々しく調笑とした舞、次に翁の面を舞台上でつけたシテは祈禱的な意味合いを持つ重厚な舞を舞う。その中で、舟・脇座前・中央で三回ずつ拍子を踏む。これを「天・地・人の拍子」と称する。翁と千歳の退場後、三番叟の賑やかな舞となる。はじめの部分を「揉之段」、黒式尉の面をつけ、鈴を付けた後半部の舞を「鈴之段」と称する。

天下泰平、国土安穩を祈る儀式能。
新年の翁。それはさわやかな日本の新春。

◆狂言「枕物狂」(まくらものぐる)

百歳を超える長寿の祖父は、最近恋に悩んで夢うつた日々を送っているとの事。この噂を聞きつけた二人の孫が、祖父のもとを訪ねて詳しく話を聞き出します。これが事実ならば是非とも成就させてあげたいと考え、その相手突き止めて。

本曲は狂言「比良山」の梅ととも「老曲」と呼ばれ、能楽修業に於ける根幹骨子(謡・舞・語り)の表現技法を、それまでの豊富な舞台経験を土台・布石にして、歳を経て初めて演じる事が許される芸の集大成とした、即ち老練にして更なる「心・技・体」の精神を問うすべてが注ぎ込まれた、狂言の最高秘曲に位置付けられています。

謡の一部には能「松風」(若い海女姉妹の悲恋物語)からの引用もあるなど、卓越した技能と品位高き技芸、それを支える助演者同を以て、これら老人の愛い能楽ならではの様式美を用いながら、かつ微笑ましくも演出しています。

◆能「杜若」(かきつばた)

東国行脚の旅僧が三河の国に着きますと、沢辺の杜若が今を盛りと咲いています。僧が花を眺めていますと一人の女が現れ、こは八橋という杜若の名所だと伝えます。そして伊勢物語にも八橋の由来が書いてあり、かきつばたの五文字を句の上においた業平の歌を紹介し、唐ころも、着つつ馴れにし、妻しあれば、通々来ぬ。旅をしと思ふ。女は業平の跡を語り、見苦しいが、僧を自分の庵に案内し、一夜の宿を勧めます。

やがて女は初冠に唐衣の姿で現れ、この衣が歌に詠まれた唐衣で高子(二条の后)の御衣で、初冠は業平の見の冠だといひます。僧が不審に思い尋ねると、自分は杜若の精であると明かします。また業平は極楽の歌舞の菩薩の化現なので、詠む和歌の言葉の葉までもがみな法身説法の妙文で、草木まで露の恵みで成仏するので、すよと語り、伊勢物語や業平について語り、舞を舞い、やがて消えていきます。

京の銘菓「八ツ橋」の名前の由来には、二つあるそうで、一つ目は筆曲の祖、八橋検校にちなみ、筆の形に似せたものというもので、もう一つは伊勢物語九段での、かきつばたの名所、三河の国八橋にちなみ、橋の形に似せたものという由来だです。(久田三津子)

正月特別公演事前学習講座

12月12日(土) 14:00~16:00

受講チケット 500円

◆能「翁」・「杜若」のあらすじ、見どころを解説します。詳細は事前学習講座チラシをご覧ください。

※事前学習講座のチケットは、名古屋市文化振興事業団の管理する文化施設窓口にて取り扱いをしております。

チケット料金(税込み) *前売券発売日 令和8年10月15日(木)

	指定 Reserved	自由 Non reserved	
		一般 Adult	大学生(25歳)以下 Student 25 and under
前売 Advance sale	5,200円	4,200円	2,000円

*学生券は25歳以下を対象とします。*未就学児のご入場はお断りいたします。
*チケットは1回につき4枚までの販売とさせていただきます。

*事業団友の会会員・障がい者手帳をお持ちの方(付添者1名含む)は400円引きです。(学生券の割引はありません。)
(名古屋能楽堂・事業団チケットガイド・事業団施設窓口のみ。各割引の併用はできません。)

前売券取扱所 Ticket Office

名古屋能楽堂/TEL.052-231-0088

*前売券発売日当日は、お電話がつながりにくいことがあります。

名古屋市文化振興事業団チケットガイド/TEL.052-249-9387

(平日9:00~17:00/チケット郵送可)

名古屋市文化振興事業団が管理する文化施設窓口<土日祝日も営業>でもお求めいただけます。

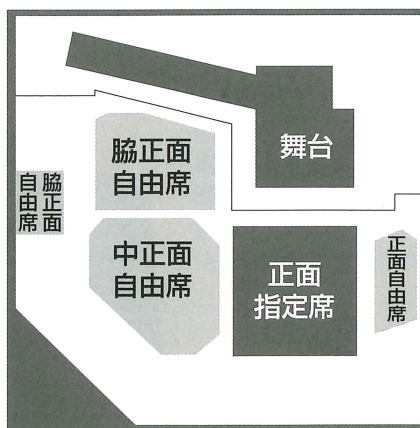
(工事休館などがありますので、ホームページでご確認ください。)

チケットぴあ/Pコード544-936

*外国籍が証明できるパスポート等を持参された方には前売・当日とも割引します。(名古屋能楽堂取扱いのみ)

Discount is available by showing passport or other proof of foreign nationality. (at Nagoya Noh Theater only)

お問い合わせ/名古屋能楽堂 TEL 052-231-0088 FAX 052-231-8756



〒460-0001 名古屋市中区三の丸一丁目1番1号

公演についての最新の情報は
名古屋能楽堂ホームページを
ご覧ください。



https://www.bunka758.or.jp/facility/nougakudo/